

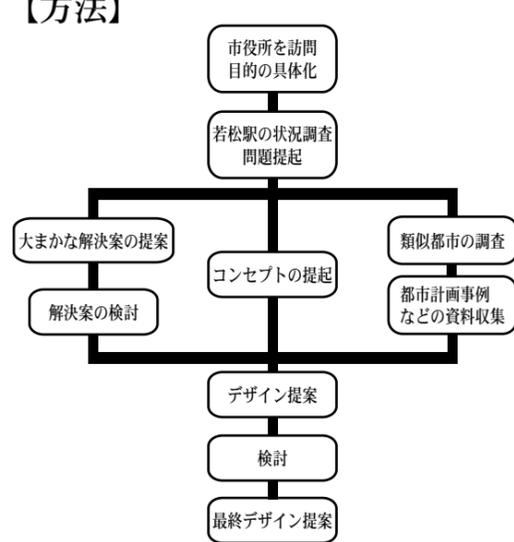
会津若松駅周辺地区の再開発についての提案 ～景観やUDの概念を基に有効利用を考える～

1番 赤間 美咲 20番 根本 絢

【背景と目的】

会津若松市は観光都市としても有名で、市を中心にまちづくりの取り組みがなされている。様々な事業が行われている中で、若松市の景観について疑問も感じるような箇所が多く見られた。そんな景観について考慮しなくてはならないと考えた地区から、自らが普段利用することが多い、会津若松駅を取り上げることにした。また、会津若松駅周辺地区は、市が制定する景観形成予定地区となっており、今後のまちづくりに対し街の顔となる駅は重要な役割があると考えた。景観だけでなく、利便性も考慮した駅周辺地区の再開発案を示すことを目的とする。

【方法】



会津若松市の特徴	類似都市
<ul style="list-style-type: none"> 人口：116,023人 江戸時代は城下町として栄え、白虎隊や戊辰戦争に象徴される鶴ヶ城や飯盛山などの名所・旧跡が残り毎年多くの観光客が訪れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 彦根市・橋本市・橈原市・富田林市 彦根市：人口：107,140人 江戸時代は彦根藩35万石の城下町で現在に至るまで歴史的、文化的な風情を色濃くとどめる。

若松駅		彦根駅
約4000人	乗降者数と年齢層	約9000人
観光 学生・通勤		学生・通勤 年配 観光
交通アクセスが不便	利便性に対して	交通アクセスが便利
街灯がわずか	治安に対する意識	街灯がわずか
公園に多少の人はいるが、広場全体は通過点となってしまう	公園の利用状況	広場のベンチで休憩する人や待ち合わせする人が多数
商店街へ向かうための横断が困難	中心市街地へのアクセス	商店街（アーケード）が駅のすぐ近くにある
地下歩道の整備	今後の取り組み	自由通路、商店街との関係城が見えにくくなる看板を積極的に排除

図1 会津若松駅と彦根駅の比較

<p>《現在の若松駅》</p> <p>バスを利用する人の安全面が全く考えられてない。殺風景さが感じられる。</p> <p>図2 会津若松駅前広場</p> <p>駅から徒歩3分程度の所に無料駐輪場が2ヶ所ある。ピボットを越えた所とダイユー8に向かう途中にある。</p> <p>図3 ダイユー8側駐輪場</p>	<p>《現在の彦根駅》</p> <p>城下街の顔を持つのに現代風の駅校舎。だが全体的に落ち着いた景観を損ねていない。</p> <p>図4 彦根駅前広場</p> <p>駅から徒歩1分程度の所に有料駐輪場が2カ所ある。</p> <p>図5 第2駐輪場</p>
---	---

【コンセプト】

「景観やUDを意識し、利便性を追求する」

歩行者や自転車をなるべく優先させるよう、駐輪場やバスの乗降場を配置する。また駅前全体が見渡せるように視覚的効果にも考慮する。

【デザイン提案】

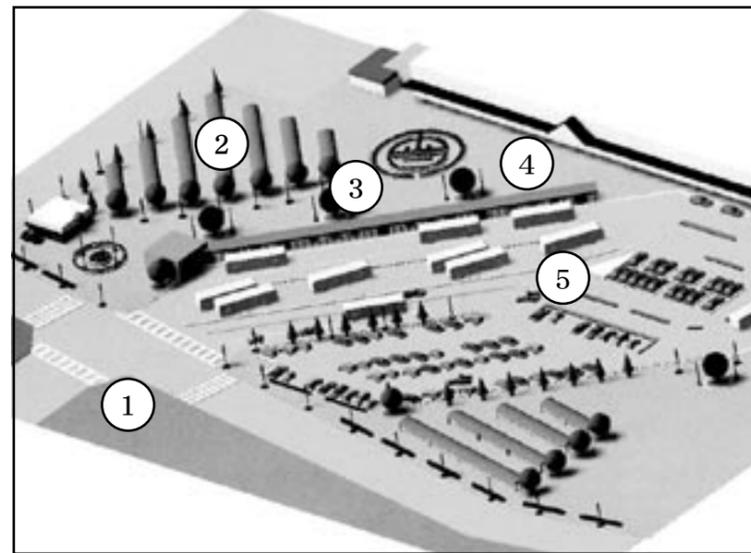


図6 駅前広場イメージ

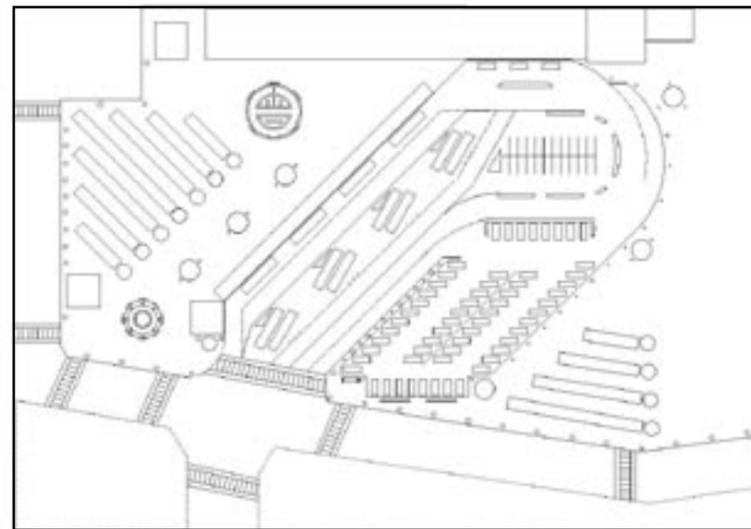


図7 図面

- ①地下歩道
地下歩道の入り口が駅前広場の景観を損ねており、地下歩道を利用しない人々にとって邪魔であるため撤去した。
- ②駐輪場
駐輪場を駅前広場に設置することで違法駐輪をできるだけ防ぐ。高低配置にし、第1駐輪場は約1000台、第2駐輪場は約600台置くことが可能。
- ③植林・街灯
通路の道なりに植物と街灯を配置した。また、ベンチを所々に設置した。緑豊かで落ち着いた空間を演出している。
- ④開放的空間
通路が広々としているため、自由に行き来することができる。駅前広場を全体的に見渡せる。街との切り離された空間をつなぎ合わせるよう景観を意識した。
- ⑤交通アクセス
タクシー、バス、一般車両の交通アクセスを一体化させることで利便性を追求した。

【考察】

近未来的にすることですばらしい駅になるというわけではない。私達が今回目指したのは、現在の会津若松駅前広場に感じられる殺風景さをなくし、現在の問題である違法駐輪を少なくすることを第一とした。また、人々が利用しやすく安全であり、街との切り離された空間をつなぎ合わせることであった。

類似都市として挙げられた彦根市を調査してきたのだが、彦根駅前広場は思ったより狭かった。しかし、車や人々の流れが複雑でなく、商店街につながる道には横断歩道がいくつかあり、狭い空間でありながらも有効利用されていると感じた。会津若松駅前広場のスペースをいかに利便性が高いものにするかで非常に苦労したが、私達のイメージ通りの駅前広場になった。しかし、駅校舎の西側、白虎通りや商店街の景観まで配慮できなかったため、今後の課題として検討していきたいと思う。

今回提案した駅前広場にすべての人が満足するかどうかは想像つかない部分があるが、この場所を通じて観光都市・会津若松市が繁栄することを期待したい。